

9月下旬から出荷可能で食味が優れる 極早生温州ミカン品種「早味かん」

果樹部

1 背景、目的

温州ミカンの中で最も早く出荷される極早生品種の価格は、その年の温州ミカン全体の販売価格に大きく影響します。このため、県産ミカンの販売をリードできるような品質の優れる極早生品種の開発が強く望まれていました。

そこで、9月下旬から10月の早い時期に収穫でき、着色、減酸が早く、食味が優れる本県オリジナルの極早生温州ミカン品種を育成しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 「早味かん」は平成15年に播種した「ゆら早生」の珠心胚実生から選抜した極早生温州ミカンです。
- 2) 9月下旬に果実の糖度が10度程度、クエン酸含量は1.0g/100ml以下となり、出荷できます。「日南1号」に比べて、クエン酸含量が少なく、糖酸比が高くて良食味です。じょうのう膜が薄く食感も優れます(図2、表1)。
- 3) 果実は9月3半旬から着色し始め、着色歩合は9月下旬に3～4分、10月上旬には5～6分程度になります。着色の進行は「ゆら早生」より早く、「日南1号」並みです(図3)。
- 4) 枝梢の発生は中、樹勢も中程度で、果形は極早生の主力品種である「日南1号」とは異なり扁球です(図1、表2)。

3 主要なデータなど



図1 「早味かん」の果実外観



図2 「早味かん」のじょうのう(袋)

表1 「早味かん」の果実品質(平成20~23年)

調査時期	品 種	果皮色 (チャート)	糖度 (Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)	糖酸比
9月下旬	早味かん	2.8	10.0	0.83	12.1
	日南1号	1.9	8.7	1.19	7.3
10月上旬	早味かん	3.7	10.3	0.81	12.9
	日南1号	3.4	8.7	1.00	8.8

注) いずれもM級果を供試、果皮色はカラーチャート指数。

表2 「早味かん」の特性(平成20~23年)

品 種	早味かん	日南1号
樹 勢	中	やや強
成熟期	9月下~ 10月上旬	10月上中 旬
果 形	扁球	扁平
じょうのう膜	薄	中
減 酸	早い	中

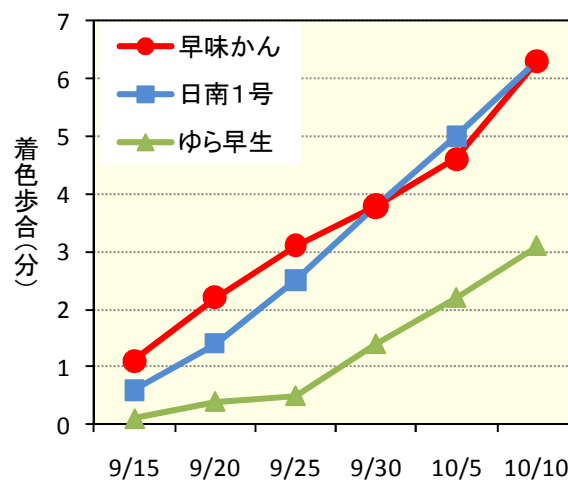


図3 「早味かん」の着色歩合の推移(平成20~23年)

注) 着色歩合は完全着色を10とした時の着色した果実表面割合。